

《原 著》

高血圧性脳出血症例における ^{123}I -BMIPP からみた 心筋脂肪酸代謝の評価

橋爪 俊和* 阪井 康仁* 林 泰*

要旨 典型的な高血圧性臓器障害である脳出血患者において、高血圧の臓器障害としての心筋脂肪酸代謝異常を評価するために、高血圧性脳出血患者 17 名 (HIH 群) において ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT を施行し、非脳出血患者 23 名 (HT 群) と比較した。視覚的に 4 段階の uptake score で判定し、 ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT では HIH 群が HT 群よりも有意に uptake score が低下していた (35.9 ± 7.9 vs. 47.9 ± 4.2 , $p < 0.001$)。一方、心筋血流の判定として ^{201}Tl 心筋 SPECT は両群で有意な差を認めなかった (45.1 ± 5.4 vs. 47.9 ± 4.2)。心エコー図による左室形態の評価では、左室重量係数ならびに相対的壁厚は両群の有意差は認められなかったが、HIH 群では HT 群よりも遠心性肥大が多く (53% vs. 37%)、遠心性肥大の ^{123}I -BMIPP の uptake score も低下していた (35.6 ± 8.3 vs. 44.8 ± 4.7)。高血圧性脳出血患者では、左室肥大形態として遠心性肥大が多く、心筋エネルギー代謝の異常も存在し、高血圧の臓器障害が ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT でより詳細に評価できることが示唆された。

(核医学 37: 319–325, 2000)